



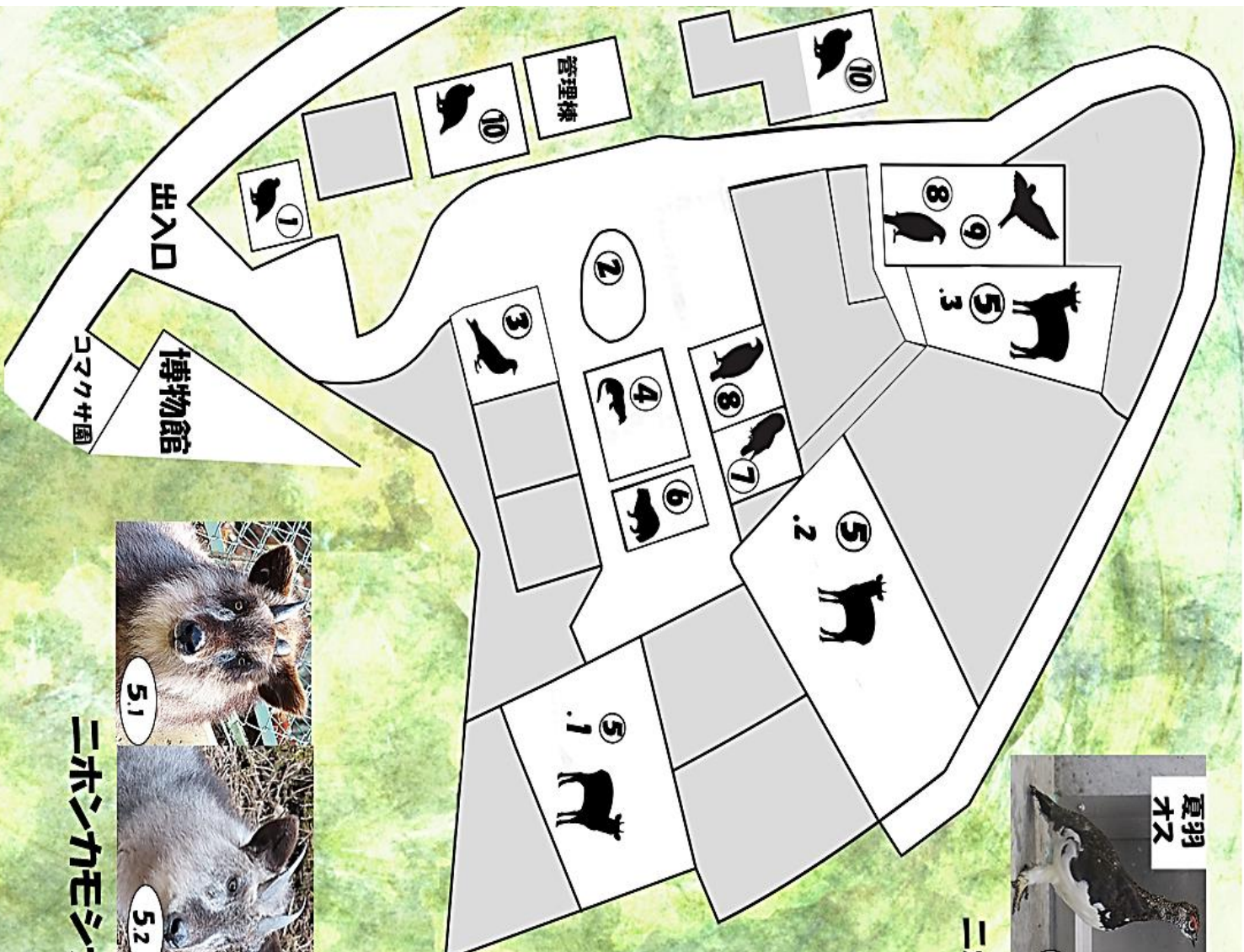
ニホンライチョウ

10



チョウゲンボウ

トビ



ニホンカモシカ



キジバト



ハクビシン



タヌキ



フクロウ



ミズハシロ



コノクサ



夏羽 オス



冬羽 オス

キジバト

ハクビシン

タヌキ

フクロウ

※ 飼育舎の都合上、お客様から見えな
い場所にて管理している動物もございます。

園内のご案内

○入園時のご注意

入園時、下記の点についてご注意ください。

【ペットは入れません】

犬などのペットを同伴しての入園はできません。ただし、認定済みアシスタント・ドッグ（盲導犬・聴導犬・介助犬）は、同伴が可能です。

【動植物を大切に】

飼育動物にエサをあげたり、おどろかせたり、こわがらせることはしないでください。また、園内の植物を抜き取ったり、折ったりしないでください。

もし身近でケガや病気などで弱っている野生動物をみつけたら…

- 原則として手をつけず、そのままにしておいてください。
 - 救護の対象鳥獣は「生物多様性の保全に貢献する観点から、人間が関与を凶らなければ絶滅が危惧される種であり、救護した後、野生復帰が可能な鳥獣」と決められています。
- ※対象動物については最寄りの地域復興局林務課または市町村へご相談ください。
- 野鳥のヒナや幼獣の誤認保護に注意してください。（とくに野鳥のヒナは、巣立ち直後うまく飛ばず、巣の近くで親からエサをもらって飛び練習をします。練習中に地面に降りてしまうこともあります。普通のことなので保護の必要はありません。また、ヘビなどに食べられている鳥、タカなどに襲われている鳥も保護する必要はありません。それらを保護することは、自然の営みの妨げになります。）

貴重な植物を研究のために育てています

付属園では、高山植物や長野県で絶滅の危機にひんしている植物、大北地域の湿原で見られる植物などを、研究を目的に育てています。

その成果を企画展などで紹介しています。

○ササユリ（見ごろ：6月中旬。花には夜にスズメガが蜜を吸いに訪れます。）



○サクランソウ

（毎年5月中旬からJR信濃大町駅のまわりで移動展示をしています。）



付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にします。

【生体展示】

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざします。

【教育普及への活用】

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動を行います。

【傷病鳥獣の救護】

過去に救護され、野生に戻せなかった野生動物の長期飼育をします。※現在は対象鳥獣以外の救護を行っていません。

【希少種の保護】

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努めます。

【施設整備の充実】

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進めます。

○開園時間

【4月～11月】午前9時～午後4時30分

【12月～3月】午前10時～午後4時（入園無料）

※ただし、動物の状態により公開の中止・時間の短縮場合があります。

○休園日

毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始
※月曜が祝日の場合は開園、翌日休園となります。7月8月は臨時で開園する場合があります。詳細は山岳博物館のHPをご確認ください。

このほか、園内の安全管理のため臨時休園する場合があります。

○施設の概要

敷地面積 39,875.92 m²

○所在地

〒398-0002 長野県大町市大町

8056-1 市立大町山岳博物館 本館隣

○交通

JR信濃大町駅より車で5分 徒歩25分

長野自動車道安曇野ICより40分

○問い合わせ

市立大町山岳博物館

電話 (0261) 22-0211

FAX (0261) 21-2133

E-mail: sanpaku@city.omachi.nagano.jp

動物取扱業者掲載
氏名又は名称：大町市 牛越 徹、事業所の名称：市立大町山岳博物館、事業所の所在地：長野県大町市大町8056-1、動物取扱業の種別：05 展示、登録番号：08000585号、登録年月日：平成19年3月23日、有効期限の末日：令和9年3月22日、動物取扱責任者：岡本真緒



市立大町山岳博物館 付属施設



ふ そ く え ん

付 属 園

（付属動植物園、コマクサ園）

“生きた学習・研究の場”として動植物を飼育栽培する付属園を屋外に併設しており、特別天然記念物のライチョウ・ニホンカモシカや高山植物のコマクサ（見頃は5月中旬～6月下旬）などを間近にご覧いただくことができます。



のまち大町市



しなののおまちキャラクター
「おおまびよん」